

資料

丹後田辺藩裁判資料(三)

裁判史研究会

代表 井ヶ田 良 治

目次

A 12 文政十三庚寅年正月廿二日

安岡村左衛門相手田中村小右衛門地所出入〔二月十

四日内證済〕

A 14 文政十三庚寅年四月四日

野村寺村重助鉄炮打候儀ニ付吟味〔五月廿日落着〕

A 12 (表紙)

文政十三庚寅年正月廿二出訴

安岡村左衛門 相手田中村小右衛門地所
出入

寅二月十四日

懸リ

(朱書)
十二

内證済

寺田退藏

文政十三庚寅年正月廿二日

(朱書)

「十二」 寺田掛

一 安岡村左衛門相手田中村小兵衛地所出入

一 右出入之儀御代官駈野弥三次承糺申諭等有之候得共難相済段
届候付公事宿江罷出相願候様可被申達旨月番退藏御代官同人
江去秋相達置候ニ付左之通

寅正月廿二日

一 今四時訴訟人安岡村左衛門庄屋治助御用宿楠右衛門着届書付
差出受取之

乍恐以書付御訴訟奉申上候

安岡村

百姓

地所出入

訴訟人

左衛門

田中村

百姓

相手 小兵衛

一右訴訟人安岡村百姓左衛門奉申上候私之持高之内御成詰六斗四升七合之地所前々田中村小兵衛名負ニ而作り来り候處同人儀先年及困窮ニ村方へ一式差出候付同人名跡相立作等もいたし候迄私方へ地所引請可申旨享和元酉年大庄屋泉源寺村八左衛門申聞則田中村々差出し候済状之写被相渡所持仕候其後私共作仕候得共近年困窮仕不手間ニ相成開作等茂難出来候儀右小兵衛儀段々成立家普請等もいたし九斗余リ之持高ニ相成出情いたし候様子承り候處数度及懸合候得共前書之地所請取不申候故無是非 御訴訟奉申上候尤享和元年願主田中村百姓惣代垣内与惣惣兵衛右之もの何卒以 御慈悲を被為召出享和年中之済状之通田中村江受取候様被為仰付被下置候ハ難有仕合ニ可奉存候以上

安岡村

百姓

文政十三庚寅年正月廿二日

左衛門印

御奉行所

(朱書)
「別紙」

丹後田辺藩裁判資料(三)

覚

一右地所私とも引受候者享和元酉年大庄屋泉源寺村八左衛門申候者天明七未年七月中大波村朝来中村御裁許之以写書申被渡候故恐入承知仕候而双方々済状差上置申候前書申上候通り相違無御座候以上

文政十三庚寅年正月廿二日

安岡村

百姓

左衛門

右之通訴状并別紙差出候ニ付立合小谷次郎左衛門 白井忠之丞 片山仙藏 請取之一通目安札相済候上明廿三日四時過可罷出旨申渡差戻ス

寅正月廿三日

覚

一今四時過御用宿新町楠右衛門着届書差出候受取左之通

安岡村

庄屋

年寄 代兼
五人組

庄屋

治 助

同村百姓

同志社法字 三八卷二号

一〇五 (二四九)

訴訟人 左衛門

右宿新町

正月廿三日

楠右衛門

如斯訴狀差出候間返答書認来月八日役所江罷出可対決者也

寅正月廿三日寺退藏印「掛り初判」

寺三右印

印

田中村

小兵衛

右 五人組

年寄

庄屋

右之通裏書印形相濟今四時過訴訟人左衛門并庄屋治助御用宿楠右衛門吟味所江呼出小谷次郎左衛門白井忠之丞片山仙藏立合之上訴狀裏書被下候間早速相手之もの江相渡為致返答書写訴狀相添来月七日四時双方一同罷出可相届旨次郎左衛門申渡訴狀并無印之添書相渡左之通

切押

訴狀裏書被下候間早速相手之ものへ相渡為致返答書写訴狀相添来月七日四時双方一同罷出可相届者也

寅正月廿三日 公事方

右請書被仰付候段次郎左衛門申渡仙藏讀之印形取之左之通

差上申一札之事

訴狀御裏書被下置難有頂載仕候早速相手之ものへ相渡為致返答写訴狀相添来月七日四時双方一同罷出御届可申上旨被仰渡奉畏候為後證一札差上申所如件

安岡村

百姓

文政十三庚寅年正月廿三日

左衛門印

御奉行所

一右ニ付懸リ退藏不快引籠中ニ付三右衛門御席へ訴狀持参讀上ル尤頭書者今日差上ル

一昨日申達置候享和元年大庄屋八左衛門江田中村へ差出候一札之本紙差出候ニ付受取置左之通

差上申一札之事

一居村小兵衛儀安岡村平六持高之内成詰六斗四升七合前々名負ニ而作り来リ候處年々未進負重リ既ニ此度潰人ニ相成一式村方へ差出申候依之安岡村江右之地所差戻申度旨數度懸合仕候得共引受不申甚難渋仕候ニ付乍恐無拋以願書を願上候然ル所此後小兵衛名跡も相立下作等ニ而もいたし候時節迄当暮御納所皆済之上安岡村江差戻し可申候旨被仰付候段難有奉存

候然上者右小兵衛儀成立候ハ、前々之通彼江無相違作為致可
申候其時違背申間敷為後日仍如件

願主田中村百姓

享和元辛酉七月

惣代 垣内印

同 惣兵衛印

同 与助印

同村年寄

加判 次兵衛印

大庄屋

八左衛門様

前書之通吟味仕リ少シ茂相違無御座候為其奥印仕リ差上申候
以上

田中村庄屋

孫兵衛印

寅二月七日

一今四時御用宿新町楠右衛門竹屋町鳥屋忠左衛門着届書差出左
之通り

覚

安岡村

庄屋

丹後田辺藩裁判資料(三)

治助

年寄

弥右衛門

五人組

甚左衛門

百姓

左衛門

以上

ノ

御用宿新町

楠右衛門

二月七日

覚

田中村

庄屋 代兼

年寄

仲

五人組

孫兵衛

水呑

小右衛門

以上

同志社法学 三八卷二号

一〇七(二五二)

御用宿竹屋町

忠左衛門

二月七日

一 今四時過小谷次郎左衛門曰井忠之丞立合相手方之もの共吟味
所江呼出訴状并添書返答書本紙控共差出候付訴状添書共請取
改メ返答書ハ本紙控讀合一通リ相糺相濟候上返答書控ハ残シ
置本紙并訴状共相渡明日五半時罷出可相届旨次郎左衛門申渡
差下ル

乍恐以返答書奉申上候

田中村小右衛門奉申上候安岡村左衛門ハ私江相掛地所出入今
般御訴訟申上今八日御差日之御裏御尊判相附候ニ付恐入左ニ
御答奉申上候

一 安岡村左衛門訴上候地所之儀ハ同人持高之内成詰六斗四升七
合下作ニ預リ候所享和元酉年私未進負重リ致方無御座候而家
財等一式村方江差出村潰人ニ成候故開作も難出来右之地所地
元江差戻候儀ニ御座候私家敷高九斗壺升八合三夕右代銀親類
中ハ村方へ出銀いたし買戻し呉候故右高家財共親類へ質物ニ
書入罷在候私共于今難渋ニ付右銀子返弁も得不仕其上兩親共
及老年幼少之子供多渡世いたし兼候得者他村出作等猶更難相
成且ハ安岡村地所ニ御座候事故田中村江引受候而も出作之儀
万事行届兼難渋ニ奉存候何卒以 御慈悲是迄之通被為 仰付

被下置候ハ、難有仕合可奉存候以上

田中村

水吞小平事

文政十三庚寅年二月八日

小右衛門印

御奉行所様

一同刻訴訟方之もの共呼出返答書差出候間明日五半時罷出可相
届旨次郎左衛門申渡差下ル

寅二月八日

一 昨日罷出候名前之通双方共罷出候旨御用宿兩人届出ル
一 立會寺田退藏寺井三右衛門公事掛小谷次郎左衛門曰井忠之丞
小頭関根守衛門同心出人藤野弥三八
梅垣其衛門 梅垣頭藏

安岡村

庄屋

治 助

年寄

弥右衛門

五人組

甚左衛門

右宿

新町

楠右衛門

田中村

庄屋
年寄
五人組
代兼

年寄

仲

右宿

竹屋町

忠左衛門



安岡村

訴訟人
左衛門

田中村

相手
小右衛門

右之もの共今四時白洲江召出ス田中村小右衛門訴状返答書共

宿楠右衛門取次差出訴状返答書取上仙蔵讀上候畢而懸リ退蔵

尋左之通り

安岡村

百姓

左衛門

其方持高之内成詰六斗四升七合之地所前々田中村
小兵衛名負ニ而為作来ル由右名負ト申訳委細可申聞
一右小兵衛儀段々成立家普請等もいたし九斗餘之持高
ニ相成出情いたし候様子承り候由弥成立たニ相違無
之哉出情いたし候様子承り及び候次第具ニ可申聞

田中村

水吞小兵衛事

小右衛門

其方潰人ト成候已前持高何ほと所持いたし候哉且屋
敷高ニ茂致セ九斗毫升餘之地所を持罷在候上者成立
た様子ニ相聞候處右高親類共江質物ニ書入ニいたし
候由于今不成立ト左衛門茂得心可致程之次第有之哉

可申聞

(朱書)
「右相済」

猶追々吟味可致

右之通一通相糺差下ル直ニ御用宿之もの吟味所江呼出今九時
ハ双方召連可罷出旨相達差戻ス

一右ニ付今朝罷出候もの共御用宿兩人召連今九時過着届依之直
ニ吟味所へ呼出小谷次郎左衛門臼井忠之丞片山仙蔵立合相糺暮時前下
ル尤申口書取左之通

安岡村

百姓

左衛門

寅三拾貳歳

一 私儀持高拾貳石九斗餘所持いたし家内八人相暮罷在候處私共持高之内御成詰六斗四升七合之地所前々田中村小兵衛名負ニ而作来ル處當時小右衛門親代之節享和元酉年中及困窮村方へ一式差出候ニ付同人名跡相立作等茂いたし候迄私方へ地所引受可申旨泉源寺村八左衛門大庄屋役中申聞然ル上者右小兵衛義成立候ハ前々之通同人江無相違作為致可申其時違背申間敷田中村百姓惣代垣内惣兵衛与助連名并年寄次兵衛加印いたし八左衛門江差出置候此度差戻シ可申旨申聞候得共受取不申義之旨申之候ニ付

一 享和元酉年大庄屋八左衛門江田中村百姓惣代三人々差出候一札ニ平六ト有之者祖父時代ニ候哉父平四郎時代之事ニ候哉

平六ト御座候者私祖父時代之事ニ而御座候

一 持高之内成詰六斗四升七合之地所前々より田中村小兵衛名負ニ而為作来ル由右名負ト申訳委細可申聞

天明七年之書付ニ名負ト認有之を以此通り是ニ而も合点不参候哉ニ大庄屋八左衛門宅ニ而朝来中村大波両村江之書付を為写貰ひ候而名負ト申事合点仕候義ニ御座候

一名負ト申ものハ譬者安岡村高百石之内九拾石安岡村ニ而作り拾石者何村名負ト上江打拔ニ而万事高割もの等迄相懸リ候ものニ而無之而者名負ト者難取用左衛門持高之内を下作いたし候ものニ相当候只下方ニ而いひ振らし候を名負ト心得候事ニ而者無之哉

前々名負ノといひふらし候ニ付下方ニ而ハ名負ト心得居申候義ニ御座候

一 小兵衛儀段々成立家普請等もいたし九斗餘之持高ニ相成出情いたし候様子承リ候由弥成立タニ相違無之哉出情いたし候様子承リ及候次第具ニ可申聞

小兵衛儀當時ニ而者居家敷も三間五間之普請もいたし九斗餘も持高所持いたし候上者成立候ものト奉存候且者享和元酉年潰人ト相成候節者只今之小兵衛儀者幼少故名跡ハ潰れたものト奉存候其後成長致候上ハ名跡ハ相立候ト申もの歟ニ奉存候既ニ天明七年大波村情左衛門も名跡成立タならばト有之是等も悴成長いたし候を成立候と同様之義ト奉存候小右衛門義今日ニ而者九斗餘茂高所持いたし人之下作もいたし候程ニ相成候上者成立候義と奉存候世間之風聞又者近村之義ニ候得者出入ニ而様子見受候得者五年已前迄者式拾俵も御納所仕候義ニ御座候故其節ハ小兵衛方へ可差戻旨懸合もいたし候得共引受呉不申其後

者庄屋治助も同人江懸合貰ひ又者兩村役人之上大庄屋迄之懸合も有之候得共兎角引受不申故御代官所迄も罷出候義ニ候得共何分ニも引受不申義ニ御座候

右之通申之ニ付名負ト申立候得共是者村名負ト申ものニ而者無之申サハ左衛門一分之上ノ名負ト申ものニ而既ニ右申立候通いひ触らし候ニ付而名負ト而已心得候迄之事ト申聞候尤小兵衛儀者いまた不成立事故段ニ懸合もいたし候趣ニ候得共不承知之趣ニ茂申之然レ共いつ連場所柄も不足之地所ニ者相違茂無之事ト相見殊ニ今日ニ而者老人之兩親幼少之子供多困窮ニ而不成立上者勘弁茂可有之筈者人情可有事与段ニ申論候處猶勘弁茂可仕由申之

一

田中村

水吞小兵衛事

小右衛門

寅四拾六歳

私儀者兩親共七拾歳餘ニ相成男子三人都合家内七人暮ニ而當時持高九斗壺升八合壺夕所持仕村内日傭持いたし罷在候處前書持高之儀者享和年中父小兵衛時代過分之未進出来仕其節外引受呉候ものハ無之故潰レニ相成其節親類たゞずまひを引受不申シテハ不殘引受ねば不相成次第ニ而依之可引受ト申事ニ相成親類之ものより貳百八拾匁出呉候而其替リニ家屋敷家財

共本物ニ書入右之訳合ニ而利足たけハ不出候而者不相成約束ニ而御座候前書九斗壺升八合壺夕之地所貳毛ニ而分米四斗八升五合ハ家敷地之分ニ相成中田ニ而三畝拾步拾五六苅斗之所ニ而御座候而尤私持分ニ而有なから私分ニ而ハ無之次第故是を私之預リニ而下作并ニ親類惣兵衛へ相立申候年柄能キ節者壺斗悪年ニハ五升七升位之場所ニ而御座候然レ共夫様ニ身分ハ不動今日之凌ニ居申候且拾貳三年已前ト覺大雪ニ而居宅潰レ其節迎も日傭持いたし外働之身分ニ而候得者年被寄候兩親御座候故此上病氣等之程も難斗ト親類村内之なさけニ而荒壁付形リ三間ニ四間斗之普請いたし貰ひ候仕合ニ御座候且先年潰レニも相成候次第故安岡村平六時代當時左衛門持高之内ニ而御座候成詰六斗四升七合私親小兵衛時代名跡茂相立下作等ニ而もいたし候時節迄者安岡村平六江預ケ父小兵衛成立候ハ前ニ之通引受可申約条之趣ニ而御座候得共前書申立候通一向今日家内之養ニおわれ候位ニ而成立候次第ニ而者無御座然レ共前書ニも申立候通惣兵衛下作并ニいたし貰候義を一通之下作同様ニ相聞候而ケ様之義も難成候申訳ニ相成候而者今日承も被答不申次第ニ御座候而難渋至極ニ奉存候左候ハ此度左衛門分引請候迎場所者中山谷之奥ニ而貳拾丁斗も隔リ其上日陰勝チニ而猪猿等ニ而一向年貢ハ無御座漸貳斗三斗ハ外出来不申場所柄ニ而六斗餘茂相立不申義ニ而猶更承茂被答不

申次第二而御座候殊ニ近年家内多ニ而致方無御座村内を相頼

新屋役高貳拾刈程其後孫兵衛隱居榮次郎田地貳反斗其後垣内

分壹反斗下作為致貫候義も御座候去丑年者漸垣内分五拾疇下

作為致貫候義ニ御座候先年之一札ニ成立候ハム前々之如く作

リ可申と御座候得共前書之下作成共不致候而者今日身分之立

所も無御座日々之養育ニおわれ漸且那場ニ而時借りいたし間

を合せ候位之次第ニ而日傭持いたし候得共賃札ハ前借引落ニ

相成候仕合ニ御座候故先達而ハ庄屋治助江も懸合相頼候處何

分村方々彼是ト申ト之義ニ而何レニ茂私引受ねば不相成儀被

申聞候へ共高者安岡村ニ而地面者左衛門持分ニ而夫を同人よ

り現在様無し場所ヲ今日難渋之中強而被預候共何茂親代之儀

ニ而高も田地も安岡村ニ有ながら是を私引受候而ハ今日致方

無御座候然レ共今ニ子とも出来成立候節ハおよひ越シニハ難

参惡敷場所と申而も仮令下人を雇ひ為作候共引受可申義者彼

是者無御座候得共何分ニ茂今日之難渋之中引受候而ハいたし

方無御座此度罷出候跡ニ而も家内養育之程如何哉ト斗心配仕

居候位之義之旨申之右之通申之ニ付不成立義ト者乍申下作等

いたし又者村内ノ助力と者乍申家作等迄いたし候上者不成立

ト申訳ニも不相聞然レ共実ニ不成立義ニ候得者実意を以其段

訳而相頼可申筈之處全体頼方も薄キ故之儀ト猶得与勘弁もて

致旨段々申添候上下ル

覚

一高九斗壹升八合三夕

内

中田三畝拾歩

分米四斗三升三合三夕

屋敷高四斗八升五合

右之通小右衛門持高書付差出受取置

一田中村小右衛門五人組孫兵衛義母大病之趣申参候ニ付帰村仕

度願御用宿忠左衛門申出承届

寅二月九日

一相手田中村小右衛門儀昨日呼出遂吟味利害申聞候處恐入吟味

中ニ候得共一応訴訟方左衛門江懸合いたし度趣ニ付親類之も

の共呼寄呉候様申ニ付親類之もの等罷越候上得与懸合為致候

義ニ付吟味猶豫之義仙藏方迄御用宿忠左衛門願出候段同人申

出候間次郎左衛門承届候

寅二月十日

一訴訟方左衛門五人組甚左衛門儀昨日ハ不快ニ付今朝帰村仕度

願御用宿楠右衛門申出候間承届候

寅二月十四日

一安岡村庄屋治助儀宗門帳面取調之儀ニ付帰村仕度願御用宿楠右衛門申出承届候

一今四時過安岡村左衛門同村庄屋代兼年寄弥右衛門右宿新町茶屋楠右衛門田中村小右衛門同村庄屋代兼年寄仲五人組長左衛門百姓垣内惣兵衛与助右宿竹屋町鳥屋忠左衛門罷出扱ニ而左之内済願書吟味所へ差出ス

乍恐以書付奉願上候

安岡村百姓左衛門〆田中村百姓小右衛門を相手取訴上候者左衛門祖父平六持高之内成詰六斗四升七合之地所前々〆小右衛門親小兵衛迄名負ニ而作来り候處同人儀及困窮享和元年潰人ニ成候ニ付同人名跡相立下作等いたし候迄平六方江引受可申旨大庄屋泉源寺村八左衛門申聞則田中村百姓惣代垣内外式人年寄次兵衛加印之證文ニ庄屋孫兵衛奥印いたし差出候證文八左衛門〆受取罷在候處小右衛門義段々成立家普請もいたし九斗餘之持高ニ相成出情いたし候由承り候間前々之通作り呉候様及懸合候處彼是申述受取不申間右證文之通引受候様被仰付被下置度段当正月中御訴訟申上候處相手方〆返答書を以答旨ハ右地所預り罷在候處潰人ニ相成差戻シ置候儀ハ訴訟方申上候通ニ候得共右屋敷高九斗壹升八合三夕ハ代銀親類之もの共出銀いたし買戻シ呉候儀ニ而右高家財親類共へ質物ニ書入罷

丹後田辺藩裁判資料(三)

在右銀子返弁茂不致其上兩親共及老年十歳以下之子供多渡世も送兼未必至之難渋故他村之地所出作等難致間是迄之通被仰付被下置段御答申上奉請

御吟味候處被^(マ)仰諭候趣双方共屈伏仕奉恐入候ニ付御猶預奉願上一同下り罷在候中扱人立入内実得与承り糺双方江掛合之上熟談内済仕候始末左ニ奉申上候

右安岡村平六持高之内田中村小兵衛名負ニ而前々〆作り来候成詰高六斗四升七合之地所小兵衛潰人ト相成候砌同人成立候迄地元へ戻置其後年数も相立候得共当時小右衛門親類共越年之上子供幼少不手間ニ付来ル亥年迄拾ヶ年之間ハ享和元年以來之通り左衛門方ニ而作いたし子年ニ至小右衛門方へ請取作為致可申万一小右衛門跡退転いたし可引受もの無之候ハ左衛門方へ引戻可申一通り小右衛門難渋申立彼是申出候ハ加判之もの共罷出テ急度同人江為引請可申管取極熟談内済仕偏ニ御威光難有奉存候然上者右出入一件ニ付重而御願筋無御座此上御吟味奉請候而者恐入候間何卒以御慈悲右之段御聞済被成下御吟味御下ケ被成下置候様双方并扱人連印を以奉願上候右願之通被仰付被下置候ハ難有仕合可奉存候以上

安岡村

文政十三庚寅年二月十四日

百姓

訴訟人

左衛門印

田中村

小兵衛事

相手方

小右衛門印

同村

百姓

扱人

垣内印

同

惣兵衛印

同

与助印

安岡村

庄屋
年寄代兼

年寄

同

弥右衛門印

田中村

庄屋
年寄代兼

年寄

同

仲 印

御用宿

竹屋町鳥屋

同

忠左衛門印

同

御奉行所様

同

楠右衛門印

新町茶屋

右ニ付小谷次郎左衛門白井忠之丞立合願書取上仙藏讀之畢而吟味中扱人立入内済いたし候段相違無之哉之旨次郎左衛門申聞候處無相違旨一同申之候ニ付一旦溜り江下置右願書懸り退蔵一覽いたし相済候上先刻之通不残呼出右内済之趣差支之筋茂不相聞候間済候趣承届候段尤請書印形可差出旨次郎左衛門申渡候上左之通

差上申一札之事

安岡村百姓左衛門田中村百姓小右衛門を相手取地所出入申立当正月中御訴訟奉申上候處同二月八日御差日之

御高判相附候ニ付返答書差上奉請

御吟味候處御吟味之趣屈伏仕奉恐入候ニ付御猶預奉願上一同下り罷在候中扱人立入内実得与承糺双方懸合之上安岡村平六持高之内田中村小兵衛名負ニ而前ミ作り来り候成詰高六斗四升七合之地所小兵衛潰人与相成候砌同人成立候迄地元江戻シ置其後年数茂相立候得共当時小右衛門兩親老年之上子供幼少不手間ニ付来ル亥年迄拾ヶ年之間ハ享和元年以来之通左衛門方ニ而作いたし子年ニ至小右衛門方江請取作為致可申万一小右衛門跡退転いたし可引受もの無之候ハ左衛門方江引戻

シ可申一通リ小右衛門難決申立彼是申出候ハム加判之もの共
罷出テ急度同人江為引受可申筈取極熟談内済仕御吟味御下ケ
之儀連印書付を以奉願上候處願之通
御吟味御下ケ被成下候段被 仰渡一同承知難有奉畏候仍而御
請證文差上申處如件

文政十三庚寅年二月十四日

訴訟人

安岡村
百姓

左衛門印

田中村

水吞小兵衛事

相手方

小右衛門印

同村

百姓

扱人

垣内印

同

惣兵衛印

同

同

与助印

安岡村

庄屋
年寄代兼

年寄

同

弥右衛門印

田中村

庄屋
年寄代兼

年寄

同

仲 印

御用宿

竹屋町鳥屋

同

忠左衛門印

同

新町茶屋

同

楠右衛門印

御奉行所

右之通仙藏讀之何レ茂印形取之相済今九時一同下ル

一

訴状返答書扣とも

四通

一

但外ニ添書老通

一

無印之添書扣共

式通

一

右請書

老通

一

享和元酉年田中村百姓惣代垣内

外貳人大庄屋泉源寺村八左衛門江差出候一札本紙

老通

一

調書

老通

一 内済願書并請證文共

式通

右之通一件封置

文政十三庚寅年二月十四日

寺田退藏
寺井三右衛門

(居石正和)

A 14 (表紙)

文政十三庚寅年四月四日吟味ニ取掛

野村寺村重助鉄炮打候儀ニ付吟味

寅五月廿日

(朱書)
「十四」

落着 寺田退藏

文政十三庚寅年四月四日吟味ニ取掛
(朱書)
「十四」 一野村寺村重助鉄炮打候儀ニ付吟味

一野村寺村重助鳥打候趣之書付御足輕ニ而引土村ニ住居罷在候
碓井忠藏方へ捨有之忠藏ハ先達而紺差相勤候ニ付其筋ト存投
込候哉御鳥見様江ト有之ニ付忠藏御鳥見江持参差出候由先達
而於御用所御沙汰有之候右者多分ニ意恨有之もの之仕業ニ候
得者捨訴等を以吟味可致筋ニハ無之ニ付右捨訴者御用人牛窪
謙藏江差戻ス然レとも此もの儀者番人之もの共先達而風説
為承置無相違趣相聞候ニ付吟味ニ取懸候事尤捨訴之趣左之通
(朱書)
「中折紙ニ認上包有之」

鳥見様へ御届ケ申上候

一の村じ村武左衛門倅重助と申者正月七日ニがんを打申
候又度々からすそれニ又御はつとのばくえきも京道ニ

てちよこ／＼仕候いろ／＼いけん仕候へ共一向きゝ入
不申あまりの事ゆへおんとゞけ申上候以上

寅四月三日

一右ニ付以差紙呼出ス

野村寺村

武左衛門悴

重助

右尋儀有之間明四日五時召連可罷出者也

四月三日公事方印

五人組

年寄

庄屋

別紙添書

一御用宿新町茶屋楠右衛門方へ着之上可被出事

寅四月四日

野村寺村

庄屋三郎右衛門煩ニ付

代兼年寄

惣右衛門

重助五人組

丹後田辺藩裁判資料(三)

太右衛門

同村

武左衛門悴

重助

右御用宿楠右衛門召連罷出差紙返上受取尤年寄并五人組之
の共ハ出席為致候

一

野村寺村

武左衛門悴

重助

右之もの今五時吟味所江呼出公事懸リ小谷次郎左衛門白井忠
片山仙
之丞立會相糺候處農業専らニいたし罷在候然處一昨年肴荷を
藏持京都江式度斗罷越候儀も御座候去丑年正月日者碇与不覚親

類丹波国奥黒谷重右衛門と申もの忝礼ニ参候節同人所持いた
し候鉄炮ニ而山王之下岸根ニ居候兎をねらひ放シ候處相当リ
尤其節居村新左衛門居合申候右兎持歸る折節母儀疫相煩居候
間為給其外本家居村弥平次方外ニ弥右衛門ト申もの方へも遣
し申候義ニ而此餘一切鳥抔打留候義者覚無之旨申之候ニ付一
先ツ下ケ置

一右ニ付表白洲江召出立會退藏三右衛門公事懸リ小谷次郎左衛
門関根守衛門公事掛リ白井忠之丞
門頭梅垣其右衛門片山仙藏同心出人佐野益助梅
垣頭藏

同志社法学 三八卷二号 一一七(二六一)

野村寺村

右尋儀有之間明七日五時前召連可罷出者也

庄屋三郎右衛門煩ニ付

四月六日公事方

代兼年寄

五人組

出席

惣右衛門

重助五人組

年寄

吉右衛門

別紙添書

野村寺村

一御用宿新町茶屋楠右衛門方へ着之上可被出事

武左衛門悴

重助

寅四月七日

其方儀吟味中入牢申付ル

一今五時御用宿新町茶屋楠右衛門左之通着届書差出尤差紙返上
受取

右之通掛リ退蔵申渡四ツ時過牢屋へ遣ス

右ニ付御用番高田織衛殿江願書掛リ退蔵上ル

野村寺村

庄屋三郎右衛門煩ニ付

寅四月六日

代兼年寄

左之通差紙ヲ以呼出ス

惣右衛門

野村寺村

庄五郎五人組

藤九郎悴

弥右衛門

三男

新左衛門五人組

庄五郎

孫左衛門

同村

同村

新左衛門

庄五郎

新左衛門

御用宿

新町茶屋

楠右衛門

メ

右之もの共今五時過吟味所へ呼出ス尤出順ハ新左衛門庄五郎

ト出ス小谷次郎左衛門白井忠之丞立會相糺
片山仙藏

野村寺村

新左衛門

私儀高式拾四石餘所持いたし家内拾三人相暮罷在候處去丑年

正月中雪搔ニ罷出候節歸リ懸ケ途中ニ而鉄炮之音いたし候ニ

付見受候所氏神山王(ヤマ)之方故跡江懸リ見受候處重助兎を打留候

故大切之事いたしタト申歸リ候處其後風聞ニ私教ヘ為打候趣

承リ恐入候次第ニ御座候且鉄炮之義者重助親類丹波之もの所

持いたし候鉄炮ニ而打候趣是亦後日承リ候義之由申之

野村寺村

藤九郎悴

三男嘉藏事

庄五郎

私儀者兩親一所ニ別家ニ罷在候而木挽職いたし外之村ニも罷

越シ外働勝ニ而御座候而難渋之身分故鉄炮抔所持いたし候次

丹後田辺藩裁判資料(三)

第八無之又者重助へかし候抔と申訳分ニ而ハ決而無御座一向

覺不申由申之

右之通申聞候ニ付一先ッ下置

一右ニ付庄五郎儀者御用宿楠右衛門方へ留置候様仙藏ヲ申置其

外新左衛門并村役人五人組共ハ歸村申付ル

寅四月十一日

一今九時前左之通差紙出ス

野村寺村

庄五郎

右之もの只今召連可罷出者也

四月十一日公事方印

御用宿

新町

楠右衛門

右之通差紙出候處早刻罷出候得共俄ニ外御用出来ニ付今日之

處相止明日五時召連罷出候様御用宿之ものへ相達差戻ス

一明日庄五郎呼出候ニ付村役人共呼出之儀懸リ仙藏ヲ出ス

明十二日五時過御用有之間罷出可被相届候以上

四月十一日

片山仙藏

野村寺村

同志社法学 三八卷二号 一一九(二六三)

役人中

寅四月十二日

一 今五時過御用宿楠右衛門着届左之通書付出ス

野村寺村

庄屋

三郎右衛門

年寄

惣右衛門

藤九郎悴

庄五郎

御用宿新町

楠右衛門

右之もの共今五時前吟味所江呼出小谷次郎左衛門曰井忠之丞
片山仙蔵
立會尤村役人共ハ出席為致庄五郎義遂吟味四時過元之通御用
宿江差戻ス村役人共ハ帰村申付ル

寅四月十三日

一 入牢重助明十四日五時呼出候ニ付同心出人之儀次郎左衛門被
申出候ニ付其段小頭共へ申聞置

寅四月十四日

野村寺村

武左衛門悴

重助

入牢

右之もの今五時吟味所へ呼出シ小谷次郎左衛門曰井忠之丞
片山仙蔵
會遂吟味元之通四時牢屋へ差戻ス

但同心出人関根与一梅垣顯藏罷出ル是ハ吟味所板椽際リ

之半間之臺ニ薄縁舗交々屯人ツム相詰候事

一 右ニ付左之通差紙出ス

野村寺村

庄五郎

右之もの今四時前召連可罷出者也
四月十四日公事方印

御用宿

新町

楠右衛門

一 右庄五郎御用宿楠右衛門召連罷出候間吟味所へ呼出前記之通
立會鉄炮等吟味いたし重助へ貸し候儀再應吟味之上一向覚無
之旨申之候ニ付一先ッ下置猶亦呼出帰村申付ル

寅五月八日

一左之通差紙出ス

野村寺村

庄屋

年寄

右尋儀有之間明九日五時過可罷出者也

四月八日公事方印

寅五月九日

一今五時過野村寺村庄屋三郎右衛門年寄惣右衛門召連御用宿楠
右衛門着届いたし候ニ付直ニ吟味所へ呼出忠之丞仙藏立會相
糺申口書取尤小谷次郎左衛門伊佐津川御普請中ニ付欠席

一庄屋三郎右衛門申聞候者田畑高三拾石餘所持いたし家内拾人
相暮シ文政十亥年四月中庄屋役被仰付相勤罷在候處去丑年正
月中氏神山王江村中雪明ケニ参候而私共も参候得共重助鉄炮
打候義ハ承リ不申殊ニ例年正月十一日ハ初寄合ト申候而組頭
ことの寄合鉄炮之儀者夫々組頭共々持主等へ心得之儀申聞候
事ニ御座候得共其節迎者重助鉄炮打候義者一向承リ不申候處
其後月日不覚申重助兎を打取候迄承リ候ニ付同年七月中ト覺
重助へ大切成義いたし候段急度叱り置候得共其節筋々江不申
出候段不調法恐入候旨申之ス

丹後田辺藩裁判資料(三)

年寄惣右衛門申聞候ハ田畑高拾八石餘所持いたし家内六人相
暮文政十二丑年四月中年寄役被仰付相勤罷在候然處同年正月
中氏神山王江雪明ケとして村中罷越候節差支有之家来之もの
差遣候ニ付其節之次第も存不申候處同年七月日ハ覺不申重助
鉄炮打候由風聞承リ候ニ付同人呼寄急度叱り候得共其段御届
も不申上候段恐入候旨申之

右之通吟味詰之上歸村申付ル尤先年寄弥次右衛門義明日四時
前召連罷出候様年寄惣右衛門江申達

寅五月十日

一今四時前先年寄弥次右衛門儀惣右衛門召連罷出候間直ニ吟味
所へ呼出前記之通立會相糺直ニ歸村申付尤申口書取左之通

一弥次右衛門申聞者田畑高貳拾石餘所持いたし家内七人相暮文
政十亥年四月中年寄役被仰付相勤同十二丑年四月中年寄役蒙
御免罷在候然ル處同年正月中氏神三王江村中雪明ケトして参
候得共親共病中看病ニ引籠罷在候間倅差遣シ其節之次第も存
不申候處例年正月十一日ハ初寄合ニ付組頭之もの庄屋宅へ寄
合專一ニ御免鉄炮杯も御座候ニ付心得方之儀持主之ものへ組
頭共々為申聞候義ニ御座候得共其節迎も重助鉄炮打候義者一
向承リ不申候處其後月日覺不申年寄役御免後同人鉄炮打候由
風聞承リ候得共看病ニ而引籠居申候ニ付如何哉と存罷在候處

今般御吟味之上承知仕恐入候由申之

寅五月十二日

一野村寺村重助鉄炮打候儀ニ付吟味仕候趣申上候書付帳面巻冊外ニ御咎附書付巻通共袋入高田織衛殿江掛リ退蔵進達ス

(朱書)

「但公事出入吟味もの吟味相決候得者口書印形申付伺書

差上御下知相濟候上裁許落着申渡候事ニ候得共以来者吟味相決候得者口書取調伺書差上御下知相濟候上口書印形申付相濟候ハ直ニ裁許落着申渡候處先達而取極置候ニ付口書印形不申付取調ニ而先月廿六日進達いたし置候處尚亦認替今日差上候得者最前之通四月ト相認進達候」

寅五月十七日

(朱書)
「五月十七日織衛殿御渡被成候」

寺田 退 蔵

江

寺井三右衛門

寺田 退 蔵 掛

寺井三右衛門

野村寺村

百姓武左衛門悴

過料錢五貫文

重 助

同村百姓

叱リ

新左衛門

同村

急度叱リ

庄 屋

叱リ

年 寄

右伺之通可被申渡候

五 月

寅五月十九日

覚

野村寺村

百姓

新左衛門

藤九郎悴

庄五郎

庄屋

三郎右衛門

年寄

惣右衛門

大庄屋

引土村

源三郎

右之もの共明廿日四時前御用尤一同印形持参候事

但落着之節御代官并御手代出席之事

五月

野村寺村

一 入牢

重 助

右之もの明廿日四時前引出

五月

右之通呼出之もの共名前書付公事懸りゝ差出候ニ付御代官并小頭共へ退藏を相達ス

寅五月廿日

一立會退藏三右衛門公事懸り小谷次郎左衛門伊佐津川御普請ニ付欠席小頭関根守衛門梅垣其右衛門公事懸り臼井忠之丞片山仙藏同心出人奥村留之助佐野益助

大庄屋

引土村

出席

源三郎

申渡

野村寺村

百姓武左衛門粹

重 助

同村

百姓

新左衛門

同村

庄屋

三郎右衛門

年寄

惣右衛門

其方共申口之趣口書申付候

(朱書)

「口書讀之」

(朱書)

「御奉行所迄讀切」

(朱書)

「畢而」

無相違候哉

(朱書)

「答」

爪印申付

大庄屋

引土村

源三郎

右口書江奥印申付ル

(朱書)

「奥書讀之」

(朱書)

「爪印
印形共取之」

(朱書)

「畢而」

追而可及沙汰

右

重助

(朱書)
「タ」

其方申口相分候ニ付出牢申付ル

五月

右之通今四時前白洲江召出懸リ退藏相渡ス

口書左之通

野村寺村

百姓武左衛門悻

重助申口

寅貳拾七歳

私儀御法度之鉄炮打候儀ニ付御吟味ニ御座候

此段私儀親懸リ之身分ニ而農業いたし罷在候然處去丑年正

月中日者覺不申屋後氏神山王江雪明ケニ参候處村内之ものも跡ヲ追々参候間掃除いたし置私儀者先江下リ候處右山王前下ノ方岸根江兎出居候を見付候ニ付其節親類丹波国奥黒谷重右衛門与申もの鉄炮を持忝礼ニ参リ合候間急ギ借リニ歸リ右鉄炮ニ而兎打取候處村内新左衛門聞附参リ敲敷叱リ候ニ付難儀ニ存候得共最早いたし方無御座持歸リ母疫煩ひ罷在候折柄故薬喰ニ為給餘者本家弥平次妻并村内弥右衛門家内之もの江茂内ニ而分ケ遣候義ニ而此外鉄炮取扱候義者無御座候旨申上候處鉄炮之儀者重キ御制禁之儀ニ付猶又御察度被

仰聞再應御吟味ニ御座候得共前書申上候通相違無御座旨申立之候ニ付被 仰聞者鉄炮之儀者重キ御制禁其身者所持不致候共去丑正月申氏神山王下ニおいて鉄炮打候段不埒之旨御吟味受可申立様無御座候
右之通相違不申上候以上

寅五月廿日

重助爪印

御奉行所

右之もの申上候趣私一同罷出承知仕候依之奥書ヲ以申上候以上

大庄屋

引土村

源三郎印

野村寺村

百姓

新左衛門申口

寅四拾貳歲

村内重助御法度之鉄炮打候儀ニ付被 召出御吟味ニ御座候

此段私儀田畑高貳拾四石餘所持いたし家内拾三人相暮罷在
候然處去丑年正月日者寛不申氏神山王江雪明ニ参り村内之

もの俱々掃除いたし帰候節鉄炮之音承候間少立戻候處重助
鉄炮を持罷在候間重キ御法度之儀重而可相愼旨申聞急度叱
リ置候儀之旨申上之候ニ付被

仰聞候者鉄炮之儀者重キ御制禁之儀ニ付重助鉄炮打候ニ無
相違候ハ、早速可申立處内證ニいたし罷在候段等閑之至不
束之旨御吟味受可申立様無御座候

右之通相違不申上候以上

寅五月廿日

新左衛門印

御奉行所

右之もの中上候趣私一同罷出承知仕候依之奥書を以申上候以
上

大庄屋

引土村

丹後田辺藩裁判資料(三)

源三郎

野村寺村

庄屋

三郎右衛門

寅五拾六歲

年寄

惣右衛門

寅貳拾八歲

村内重助御法度之鉄炮打候儀ニ付 被召出御吟味ニ御座候

此段三郎右衛門ハ田畑高三拾石餘所持いたし家内拾人相暮
惣右衛門ハ田畑高拾八石餘所持いたし家内六人相暮罷在候
然處鉄炮之義者重キ御法度之儀ニ付正月十一日組頭共初寄
合之節夫々持主等江心得申聞猶心を附罷在候得共重助鉄炮
打候儀者一向不存候處数月過承候ニ付甚大切之儀不埒之段
ハ急度叱リ置候得共其節申立候儀ニ心附不申恐入候旨申上
之候ニ付被 仰聞候者鉄炮之儀者重キ御制禁之儀ニ付重助
鉄炮打候段追而承候とも早速可申立處其心附無之段不埒之
旨御吟味受一同可申立様無御座不調法仕候
右之通相違不申上候以上

寅五月廿日

三郎右衛門印

同志社法学 三八卷二号

一二五 (二六九)

惣右衛門印

御奉行所

右之もの共申上候趣私一同罷出承知仕候依之奥書を以申上候以上

大庄屋

引土村

源三郎印

右相濟一旦下ヶ置キ即刻白洲江召出左之通

一立會退職三右衛門御代官荒川儀十郎小頭関根守衛門梅垣其右衛門公事掛リ臼井忠之丞片山仙藏郷手代木田矢太郎同心出人奥村留之助佐野益助

大庄屋

引土村

出席

源三郎

申渡

野村寺村

百姓武左衛門悴

重助

其方儀鉄炮之儀者重キ御制禁之處其身ハ所持不致候とも去丑年正中氏神山王下ニおいて鉄炮打候段不埒ニ付過料錢五貫文申付ル

同村

百姓

新左衛門

其方儀鉄炮之儀者重キ御制禁之儀ニ付重助鉄炮打候ニ無相違候ハ、早速可申立處内證ニいたし罷在候段等閑之至不束ニ付叱リ置

同村

庄屋

三郎右衛門

年寄

惣右衛門

其方共儀鉄炮之儀者重キ御制禁之儀ニ付重助鉄炮打候段追而承候共早速可申立處其心附無之段不埒ニ付三郎右衛門ハ急度叱リ惣右衛門ハ叱リ置

同村

百姓藤九郎悴

庄五郎

其方儀重助打候鉄炮之儀ニ付呼出候得とも同人義も其方鉄炮ニハ無之旨申立候ニ付今般者不及沙汰尚追而可及吟味義も可有之間其旨相心得可罷在一先達而吟味ニ付呼出し候弥次右衛門儀者無構問其旨

可申通

右申渡趣一同證文申付ル

大庄屋

引土村

源三郎

其方右證文江奥印申付ル

五月

右相濟直ニ吟味所江呼出シ次郎左衛門欠席忠之丞仙藏立會受印被仰付尤過料錢之儀者三日之内役所江可相納旨申渡但大庄屋引土村源三郎出席為致奥印いたす何連茂印形相濟請書左之通

差上申一札之事

野村寺村重助鉄炮打候一件再應御吟味之上左之通 被仰渡候
一重助儀鉄炮之儀者重キ御制禁之處其身者所持不致候とも去丑
正月中氏神山王下ニおいて鉄炮打候段不埒ニ付過料錢五貫文
被 仰付候

但過料錢ハ三日之内御役所へ可相納旨被 仰渡候

一新左衛門儀鉄炮之儀者重キ御制禁之儀ニ付重助鉄炮打候ニ無
相違候ハ、早速可申上處内證ニいたし罷在候段等閑之至不束
ニ付御叱リ被置候

一三郎右衛門惣右衛門儀鉄炮之儀ハ重キ御制禁之儀ニ付重助鉄

丹後田辺藩裁判資料(二)

炮打候段追而承候共早速可申立處其心附無御座不埒ニ付三郎
右衛門ハ急度御叱リ惣右衛門ハ御叱リ被置候

一庄五郎儀重助打候鉄炮之儀ニ付被召出候得共同人義も私鉄炮
ニ者無御座候旨申上候ニ付今般者不被及御沙汰ニ尚追而可被
及御吟味義も可有御座候間其旨其旨相心得可罷在旨被 仰渡
候

一先達而御吟味ニ付被召出候弥次右衛門義ハ無御構間其旨可申
通旨被 仰渡候
右被 仰渡候趣一同承知奉畏候若相背候ハ、御料可被仰付候
仍而御請證文差上申所如件

野村寺村

百姓武左衛門悴

文政十三庚寅年五月廿日

重 助爪印

同村

百姓

新左衛門印

同村庄屋

三郎右衛門印

年寄

惣右衛門印

同村

同志社法学 三八卷二号

一二七 (二七二)

百姓藤九郎倅

庄五郎印

御奉行所

前書被 仰渡候趣私一同罷出奉承知候依之奥書を以申上候
以上

大庄屋

引土村

源三郎印

右相濟一同帰村右請書写半切ニ認御代官荒川儀十郎江退蔵
渡

一右相濟候ニ付御届書高田織衛殿江懸リ退蔵上ル左之通

〔朱書〕
「差上半切」

野村寺村重助鉄炮打候一件

申渡相濟候儀申上候書付

御届

寺田退蔵

寺井三右衛門

寺田退蔵

掛

寺井三右衛門

野村寺村

百姓武左衛門倅

重助

過料錢五貫文

同村百姓

叱リ

新左衛門

同村

急度叱リ

庄屋

叱リ

年寄

右御書付之通今日申渡相濟申候

依之申上候以上

五月廿日

寅五月廿二日

覚

一 錢五貫文

但壹貫文ニ付銀九匁四分壹厘□□□□

此札四拾八匁四分六厘

右之通野村寺村重助過料銀同村庄屋三郎右衛門吟味所江上納
いたし候ニ付受取

一 吟味申口書付

三通

一 申渡請書

壱通

一 番人申口書取小頭々差出候書付

壱通

以上

右之通一件封置

文政十三庚寅五月廿日

寺田退藏

寺井三右衛門

(村上一博)